

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第1章 建築コスト管理の概要	項目	1.1 建築コスト管理とは	細目	1.1.1コスト管理とは何か	正答肢	3										
<p>問題 1</p> <p>建築事業（プロジェクト）におけるコスト管理の定義に関する記述のうち、<u>解答の組み合わせが最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</u></p> <p>a. コスト管理は、コスト有効性の向上を目指す。</p> <p>b. コスト有効性は、支払うコストと得られる効用の大きさとの比である。</p> <p>c. コスト有効性向上の意義は、発注者が目標とする建築物の価値を設定し、支払いコストの低減を目指すことにある。</p> <p>d. コスト有効性においては、アウトプットである「得られる効用の大きさ」について、定性的に評価することが望ましい。</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>a P. 2 25行目</p> <p>b P. 2 27～30行目、P. 3 3行目</p> <p>c P. 2 37～42行目</p> <p>d P. 2 32～37行目</p>											
<p>【解答肢】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>組み合わせ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>aとbとd が適切</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>aとbとC が適切</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>aとb が適切</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>aとc が適切</td> </tr> </tbody> </table>						番号	組み合わせ	1	aとbとd が適切	2	aとbとC が適切	3	aとb が適切	4	aとc が適切	<p>【解説】</p> <p>3 が最も適切な組合せ cとdが不適切、</p> <p>c コスト有効性向上の意義は、投資しようとする「一定のコスト」で、「建築物から得られる効用をいかに最大化させるか」にある。</p> <p>d 得られる効用の大きさは、「定量的に評価する」ことが望ましい。</p>	
番号	組み合わせ																
1	aとbとd が適切																
2	aとbとC が適切																
3	aとb が適切																
4	aとc が適切																

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.6 VE (バリューエンジニアリング)	正答肢	4
<p>問題 2</p> <p>VE (バリューエンジニアリング) の価値向上の基本パターンに関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u> を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同じ機能のものを安いコストで手に入れる。 2 同じコストで、より優れた機能を手に入れる。 3 より優れた機能を果たすものを、より安いコストで手に入れる。 4 少々機能は下がるが、より安いコストで手に入れる。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P116 22 行目 2 P116 23 行目 3 P116 24 行目 4 P116 25 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>一般に機能を落してコストを下げる方法は、VE の価値向上の基本パターンには含まれていない。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.6 建物維持管理段階の業務	細目	3.6.2改修工事とコスト管理	正答肢	2
<p>問題 3</p> <p>改修工事とコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 改修工事における仮設工事費のウエイトは、新築工事と比較して大きくなる。</p> <p>2 改修工事の特徴として、施工者都合による作業可能な時間の制約や情報管理の強化、工事エリアの養生方法の変更などが必要となるため、その手法や頻度によりコストは大きく変動する。</p> <p>3 環境・設備の陳腐化・劣化については、管理コスト削減を目的に、制御管理を遠隔地の制御センターで複数ビルを集中管理する方式への更改などが進んでいる。</p> <p>4 改修工事の特徴として、建物の営業を一時的にストップせざるを得ないケースもよくあり、この機会に、安全性向上工事、環境設備更改工事、ICT機能対応工事の複数要因の改修工事を一度に合わせて実施するケースも多ことから、コスト増となる要因も増える。。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P219 32・33行目</p> <p>2 P216 29～31行目</p> <p>3 P215 40～42行目</p> <p>P216 1行目</p> <p>4 P216 26～28行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>施工者都合ではなく、テナント入居者都合による…が正しい。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト 管理	項目	3.3 設備計画とコスト	細目	3.3 (2) 設備コストの構成	正答肢	4
<p>問題 4</p> <p>設備工事に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 給水設備、給湯設備は給排水衛生設備工事であるが、不活性ガス消火設備は空気調和設備工事である。</p> <p>2 熱源機器設備、空調ダクト設備は空気調和設備工事であるが、排煙ダクト設備は給排水衛生設備工事である。</p> <p>3 入退室管理設備、防犯設備は電気設備工事であるが、監視カメラ設備は電気設備工事でない。</p> <p>4 自家発電設備、太陽光発電設備は電気設備工事であるが、自動制御設備は電気設備工事でない。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P136 20～25 31 行目</p> <p>2 P136 3～5 15 行目</p> <p>3 P135 26 31～32 行目</p> <p>4 P135 7～8 P136 36 行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>4 が最も適切</p> <p>自動制御設備は空気調和設備工事である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.2 構工法とコスト	細目	(4) CFT (Concrete Filled Steel Tub 構造 (5) ハイブリッド構造	正答肢	4
<p>問題 5</p> <p>CFT構造とハイブリッド構造に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 CFT構造は、鉄骨鋼管柱にコンクリートを充填した構造であり、柱SRC・梁S構造と比較しても、型枠、鉄筋が不要であり、工期も短縮できる可能性が大きい。 2 ハイブリッド構造とは、異なる材料、部材、架構を組み合わせた構造形式の総称であり、構造的な合理性、施工面でのメリット及びコストメリットを追求した結果である。 3 合成構造とは、異なる材料を組み合わせた構造形式で、RC造に鉄骨を加えたSRC造が代表的なものであり、鉄骨とコンクリートを組み合わせたCFT構造もこの分類である。 4 複合構造とは、異なった材料で構成される部分架構を組み合わせてひとつの架構を形成する構造形式であり、一例として、コア部分をRC造とし、外周居室部をS造とする構造形式がある。 						<p>【出典】</p> <p>建築コスト管理士ガイドブック</p>	<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>4. は、混合構造の記述である。</p> <p>複合構造とは、異なった材料で構成された部材を組合せて、架構を形成する構造形式である。</p> <p>柱をRC造で梁をS造とした構造などがある。</p>

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第2章 建築産業とコスト管理	項目	2.1建築産業におけるコスト管理の役割	細目		正答肢	4
<p>問題 6</p> <p>発注方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本における主な建築発注方式に関しては、設計施工分離方式は最も一般的である。 施工は全てを建設会社へ発注する一式請負発注方式のほか、設備や機械工事などを別発注とする分離発注方式、下請契約内容を事前に考慮したコストオン方式などがある。 設計段階で施工者が技術協力を行うECI方式は公共建築工事でも採用・実施されている。 建設会社が行う設計施工一貫方式は、海外で一般的な発注方式の一つである。 <p>※ECI(Early Contractor Involvement)アーリー・コントラクター・インボルブメント (設計段階から施工者が参画し、施工の実施を前提として設計に対する技術協力を行う)</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P20 35～36 行目 P20 36～38 行目 P21 42 行目～P22 1 行目 P20 39 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>設計施工一貫方式は日本の特徴的な発注方式の一つである。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.4 発注方式	細目	3.4.1 設計者と施工者の選定方式	正答肢	2
<p>問題 7</p> <p>競争入札と随意契約に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「指名競争入札」では、発注者があらかじめ参加できる者を指名する。 「一般競争入札」では、多くの設計者・施工者に入札に参加してもらうために参加資格条件を定めてはいけない。 「特命随意契約」は、発注者が設計者あるいは施工者と長期的な信頼関係を有している場合などに多く採用される。 「見積合わせ」では、複数の設計者・施工者に対して見積書の提示を求め、各社の見積り金額と内容を検討し、状況によっては価格の折衝を行って選定する。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 151ページ 36行目 152ページ 13行目 153ページ 2行目 151ページ 38行目 	
						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>一般競争入札でも参加資格条件はつく</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.6環境計画とコスト管理	細目	4.6.1環境を取り巻く動向	正答肢	2
<p>問題 8</p> <p>環境関連法などに関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 地球温暖化対策推進法は、社会経済活動、その他の活動による温室効果ガスの排出の抑制などを促進するための法律である。</p> <p>2 「建築物省エネ法」で2017年施行の規制措置としては、2,000㎡以上の大規模建築物（特定建築物）の届出義務がある。</p> <p>3 「建築物省エネ法」では、一次エネルギー消費基準（BEI：Building Energy Index）が、新築建物で1.0以下、既設建物で1.1以下となるように求められている。</p> <p>4 環境基本法は、環境保全について、基本理念を定め、国、地方公共団体、事業者及び国民の責務を明記した法律である。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P304 27～28 行目</p> <p>2 P304 38～41 行目</p> <p>3 P304 41～42 行目</p> <p>4 P304 25～26 行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>届出義務ではなく、適合義務がある。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第1章 建築コスト管理の概要	項目	1.4 建築コスト管理士の社会的責任と役割 1.5 建築コスト管理士の倫理	細目		正答肢	2										
<p>問題 9</p> <p>建築コスト管理に関する次の記述のうち、<u>解答の組合せが最も適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>a. 建築コスト管理士は、建築コスト管理という業務を通して社会に貢献するという使命感と倫理観が求められている。</p> <p>b. 建築コスト管理士は、建築コストの透明性、妥当性、競争性、公平性についての説明責任がある。</p> <p>c. 建築コスト管理士の業務領域は広く、より長期的そして多面的に建築コストを理解し、社会に対して貢献するという姿勢が必要である。</p> <p>d. 建築コスト管理士は、常に幅広い知識と技術を維持し、所属企業のよきパートナーとして、業務にあたる。</p> <p>【解答肢】</p> <table border="1" data-bbox="448 1193 875 1457"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>組み合わせ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>aとbとd が適切</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>aとc が適切</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>aとbとd が適切</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>aとcとd が適切</td> </tr> </tbody> </table>						番号	組み合わせ	1	aとbとd が適切	2	aとc が適切	3	aとbとd が適切	4	aとcとd が適切	<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>a P. 16 15～16行目 b P. 16 21～22行目 c P. 16 35～37行目 d P. 17 22～23行目</p> <p>【解説】 2 が最も適切 bとdが不適切、</p> <p>b「競争性」は含まれない。</p> <p>d「依頼者」のよきパートナーとして、業務にあたる。</p> <p>お詫び 解答肢番号1を a と b と c にすべきところ、 解答肢3と組み合わせが同一になってしまいました。 受験者皆さまにお詫び申し上げます。</p>	
番号	組み合わせ																
1	aとbとd が適切																
2	aとc が適切																
3	aとbとd が適切																
4	aとcとd が適切																

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第7章 建築数量積算基準	項目	7.3基準で決めていること	細目	7.3.1.総則の定義	正答肢	2			
<p>問題 10</p> <p>建築数量積算基準の数量に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 根切りの数量を計画数量とした。 2 コンクリートの材料数量を所要数量とした。 3 鉄骨の材料数量を所要数量とした。 4 木材の材料の数量を所要数量とした。 					<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P207 18～27 行目 2 P207 18～27 行目 3 P207 18～27 行目 4 P207 18～27 行目 			<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>コンクリートは、計画数量、所要数量の項目に該当しないので、設計数量とする。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.5 施工段階の業務	細目	3.5.1発注者側におけるコスト管理	正答肢	3
<p>問題 1 1</p> <p>発注者側におけるコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 設計変更や追加工事はどこに起因し、誰が負担すべきかに関する基本的な判断基準にもとづき、発注者が負担すべき項目を確定する。 2 変更・追加金額の算定は、民間工事においては、契約内訳明細書の内容に準拠して、変更・追加処理を行うのが一般的である。特に単価、経費率等については整合性に留意する。 3 設計変更において新規項目が発生した場合は、契約内訳明細書における類似項目の単価レベルおよび実勢価格を考慮の上、施工者に指示し決定する。 4 設計変更に際しては、直接的な費用だけではなく、間接的な要素についても、内容を十分把握の上、内容検討を行うことが必要である。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P187 26～27 行目 2 P187 28～30 行目 3 P187 32～33 行目 4 P187 35～36 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>施工者に指示ではなく、協議し決定する。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第8章 内訳書標準書式		項目 8.5 内訳書作成上の留意点	細目 8.5.1 仕様について 8.5.2 数量について 8.5.3 寸法について 8.5.4 細目の記載順序について	正答肢	4
<p>問題 1 2</p> <p>改修内訳書標準書式について、次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 改修の規模、改修範囲、改修内容などを部位として捉えることを基本としている。 工事費の構成で「種目」と「大科目」は、改修内容に合わせて適宜設定して使うことになる。 「中科目」は、改修工事に必ず伴う既存の仕上や家具などの「撤去」と新しい仕上げする「改修」に分かれる。 「細目別内訳」は、工事費の把握、調整、工事管理などに利用するため、必ず工種別の部位細目内訳とする。 			<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P218 36～37 行目 P218 41 行目 P219 1～2 行目 P219 3～5 行目 		
			<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>「細目別内訳」は、部位別工種別細目内訳、工種別の部位細目内訳、改修工事毎に部位別細目内訳など、工事費の把握、調整、工事管理などに適切な書式を採用することとなる。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.10 コンストラクション・マネジメント(CM)	細目		正答肢	3
<p>問題 13</p> <p>コンストラクション・マネジメント（CM）に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 CMrとしてコスト・マネジメントを行う場合、一般的には設計者や施工者などがプロジェクトに参画している場合は、概算など算出する業務を直接行うことは少なく、提示されたものの妥当性の確認や助言を行うことが多い。</p> <p>2 CMrが行なう基本的なマネジメント要素は、品質マネジメント、スケジュール・マネジメント、コスト・マネジメント、調達マネジメント、リスク・マネジメント、そして、全体マネジメントの6つに集約され、必要なスキルとして整理することができる。</p> <p>3 CM（コンストラクション・マネジメント）は、「発注者の代理人としてその利益を擁護するために、設計・発注・施工の各段階において、設計の検討や工事発注の検討、工程管理、品質管理、コスト管理などの各種のマネジメント業務の全部または一部を行なうもの」とCM方式活用ガイドライン（2002年、国土交通省）に記載されている。</p> <p>4 CMアットリスクでは、発注者に代わりCMrが、各施工者と直接契約し、マネジメント業務に加え、工事施工に関する契約も行う。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築コスト管理士ガイドブック</p> <p>1 P.376 6～8行目</p> <p>2 P.370 32～34行目</p> <p>3 P.366 6～10行目</p> <p>4 P.367 16～17行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>CM方式活用ガイドライン（2002年、国土交通省）において、「発注者の代理人としてその利益を擁護するために、」ではなく「技術的中立性を保ちつつ発注者の立場に立って、」と記載されている。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章 目	第6章 建築積算業務の実際	項 目	6.11 内外装仕上の工種ごとの解説	細 目	6.11.1 既製コンクリート 6.11.2 防水 6.11.3 石 6.11.4 タイル	正答肢	2
問題 14 内外装仕上の積算に関する次の記述のうち、 <u>最も不適切なもの</u> を1つ選び、その番号を答えなさい。					<p style="text-align: center;">【出典】</p> <p style="text-align: center;">建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P147 42行目</p> <p>2 P148 14行目</p> <p>3 P148 32行目</p> <p>4 P149 2行目</p>		
<p>【解答肢】</p> <p>1 ALCパネルのコーナーパネル等の役物は、工法、厚み等によって区分し、別計上する。</p> <p>2 塗膜防水の防水入り隅処理を計測・計算し、別計上する。</p> <p>3 石の貼付けモルタル、鉄筋、アンカー金物、目地モルタル、清掃等は単価に含まれる。</p> <p>4 役物タイルは、形状やサイズにより区分し、延べ長さで計上する。</p>					<p style="text-align: center;">【解説】</p> <p style="text-align: center;">2 が最も不適切</p> <p>防水入り隅処理の計測・計算は必要ない。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.1 建築コスト管理の業務体系	細目	3.1.1 プロジェクトの各段階における コスト管理業務の役割 (1)プロジェクトの各段階とコスト管理業務	正答肢	3
<p>問題 15</p> <p>プロジェクトの各段階におけるコスト管理業務に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</u></p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 企画段階では、主として事業主からの情報をもとに、事業計画の遂行に必要な目標コスト（予算）を設定するが、この時点でのコスト算出に使用する情報は、基本的に「建物用途・仕様」と「規模」の2つの要素である。 2 基本計画段階では、建物の重要な項目について複数の案のコスト比較を行い、最適な建物計画案を選定絞り込むための検討支援を行う。 3 実施設計段階では、設計が70%程度進行した時点で、基本設計段階の概算コストを見直し、目標予算を超えた場合は、複数の設計案（プラン、構工法、設備方式など）の検討を行う。 4 発注段階では、工事内容に適した施工者の選定方式の策定、適切な契約条件の策定、施工者の選定、適正な工事請負代金の算出などを行う。 					<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P35 10～12行目 2 P37 2～6行目 3 P41 11～13行目 4 P42 2～4行目 		
					<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>複数の設計案（プラン、構工法、設備方式など）の検討は、基本計画若しくは基本設計時点の業務である。（目標予算との対比を行い、予算を超えた場合は、代替案などコスト縮減案を策定する...が正しい）</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.1 建築企画とフィジビリティスタディ (1) 建築企画の役割と手順 (3) 建築プロジェクトのフィジビリティスタディ (4) フィジビリティスタディと建築コスト	正答肢	3
<p>問題 16</p> <p>建築企画とフィジビリティスタディに関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 建築企画の事業プロセスは、企画立案段階、企画推進段階、建設段階、運営段階の大きく4つの段階に分けることができる。</p> <p>2 建築プロジェクトを実施するに当たっては、「事業ありき」と「土地ありき」の両パターンともに、「法的及び、経済的なフィジビリティスタディ」を行う。</p> <p>3 フィジビリティスタディは、基本構想・基本計画段階よりも実施設計段階で実施することで、事業の経済的成立性について、精度の高い見通しを持つことが期待されている。</p> <p>4 事業成立性を担保できる建築コストを、フィジビリティスタディの中で求めて、これを建築設計上の目標コストとするという考え方も、建築プロジェクト事業成立性を高めるうえで有効な手法である。</p>					<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P47 17～19行目</p> <p>2 P49 25～35行目</p> <p>3 P61 23～25行目</p> <p>4 P61 38～41行目</p>		
					<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>フィジビリティスタディは、事業の経済的成立性を検証することを目的としており、できる限り、事業の初期段階で、事業の経済的成立性について精度の高い見通しを持つことが期待されている。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第1章 建築コスト管理の概要	項目	1.1 建築コスト管理とは	細目	1.1.1コスト管理とは何か 1.1.2建築コスト管理の機能 1,1,3発注者側におけるコスト管理	正答肢	4										
<p>問題 17</p> <p>建築コスト管理に関する次の記述のうち、<u>解答の組み合わせが最も適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>a. 論理的に算定される「コスト」と、需給バランスや営業的な判断により決定される「プライス」との関係性を分析・把握することは、発注者側のコスト管理における最も重要なポイントとなる。</p> <p>b. 一般的に発注者の視点によるプライスとは、発注者の販売価格であるが、発注者側のコスト管理におけるプライスの定義とは異なっている。</p> <p>c. コスト管理のPDCAサイクルにおけるDo（実施）とは、コスト管理業務計画に沿って業務を実施する（コスト計画の設計への反映）ことである。</p> <p>d. コスト管理とは、「予算を効果的に使い、発注者が目標とする成果（価値）を達成するための管理活動」ともいえる。</p> <p>【解答肢】</p> <table border="1" data-bbox="400 1209 871 1474"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>組み合わせ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>aとbとc が適切</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>bとd が適切</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>aとd が適切</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>全て適切</td> </tr> </tbody> </table>					番号	組み合わせ	1	aとbとc が適切	2	bとd が適切	3	aとd が適切	4	全て適切	<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>a P.8 10～12行目</p> <p>b P.7 1～18行目</p> <p>c P.5 23～24行目</p> <p>d P.2 40～42行目</p> <p>【解説】</p> <p>4 が最も適切</p> <p>問題の、a、b、c、d、はすべて適切</p>		
番号	組み合わせ																
1	aとbとc が適切																
2	bとd が適切																
3	aとd が適切																
4	全て適切																

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.4 概算手法とBIMの活用	正答肢	4
<p>問題 18</p> <p>事業構想段階及び企画段階における概算の目的に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P86 4 行目 2 P86 5～6 行目 3 P86 28 行目 4 P87 22～23 行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 事業構想段階：事業が成立可能かどうかを判断するために、事業予算を検討する。 2 事業構想段階：建設計画と事業予算との整合性を検討する。 3 企画段階：FS（フィジビリティスタディ）を行い、事業の成立を確認する。 4 企画段階：具体化しつつある各図面や資料、スケッチやヒアリングなどをもとに、極力数量を積み上げてターゲットコストと設計内容の整合性を確認する。</p>						<p>【解説】 4 が最も不適切</p> <p>基本計画段階に関する記述である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.2 構工法とコスト	細目	(9) 現場揚重に関する工法	正答肢	1
<p>問題 19</p> <p>資機材の現場揚重計画に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 設備配管・ダクトのユニット化では、工場あるいは現場の地上製作ヤードにおいて、横・縦配管あるいはダクトをユニットとして組み立て、設備工程に合わせてクレーンで揚重・設置することで、現場作業の減少、作業の安全性や労務費の低減などが期待できる。</p> <p>2 建築部材のユニット化では、鉄骨やデッキ型枠・耐火被覆などをセットし、設備機器・配管などを組み込み、そのユニットを鉄骨建て方時に揚重・設置することで、地上作業が主体となり、作業の安全性や労務費の低減などが期待できる。</p> <p>3 リフトアップ工法では、S造の大空間屋根部分を、現場において鉄骨・屋根材・設備機器・配管・天井仕上げなどまで組上げ、柱部分にセットしたリフトアップ装置で上方に引き上げて、所定の高さにセットすることで、作業の安全性や労務費の低減などが期待できる。</p> <p>4 外装カーテンウォールのユニット化では、低層階に設けた作業ヤードにおいて、一定の大きさにユニット化し、専用の自動吊り上げクレーンにより下階から取り付けることで、高所での組立作業が減少し、作業の安全性や労務費の減少などが期待できる。</p>					<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P260 28～32行目</p> <p>2 P260 34～38行目</p> <p>3 P260 41・32行目</p> <p>4 P261 1～4行目</p>		
					<p>【解説】</p> <p>1が最も不適切</p> <p>設備工程…ではなく躯体工程に合わせて…が正しい。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第6章 建築積算業務の実際	項目 6.15 内訳書の作成	細目 6.15.2 内訳書の作成にあたって 6.15.2.(1) 内訳書の主な役割	正答肢 1
<p>問題 20</p> <p>建設工事の受注者にとって、内訳書の主な役割に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業収支計画時の工事費の算出根拠となる。 2 設計図書に対する工事原価の算出資料となる。 3 請負契約が成立する時の契約書類となる。 4 施工段階での原価管理業務資料となる。 		<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P178 31行目 2 P178 34行目 3 P178 35行目 4 P178 36行目 <p>【解説】</p> <p>1 が最も不適切</p> <p>問題の受注者にとっては、発注者が正解。</p> <p>発注者あるいはPFIばどの事業提案における受注者にとって、事業収支計画時の工事費の算出根拠となる。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第7章 建築数量積算基準		項目 7.3基準で決めていること	細目 7.3.2区別・区分できめていること	正答肢	1
<p>問題 2 1</p> <p>建築数量積算基準で定められている、鉄骨の計測・計算方法で、次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>				<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P210 35行目 2 P210 32～33行目 3 P210 29行目 4 P210 29～30行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 形鋼、鋼管及び平鋼の所要数量を求めるときは、設計数量に対して3%割増とする。</p> <p>2 加工や鉄骨組み立てにおいて、ボルト類のための孔明け、開先き加工、スカラップ、柱、梁等の接続部のクリアランス等の欠除はしない、ダクト孔等による0.1㎡以下の欠除はないものとする。</p> <p>3 ボルト類は規格、形状、寸法ごとに個数または質量に換算したものを設計数量とする。</p> <p>4 溶接は種類に区分して、断面ごとに長さを求め、すみ肉溶接脚長6mmに換算した延べ長さとする。</p>				<p>【解説】</p> <p>1 が最も不適切</p> <p>設計数量に対して5%割増とする。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.6 建物維持管理段階の業務	細目 3.6.3 設備改修工事とコスト管理 3.3.3 (3) 建物・設備劣化診断と改修・修繕時期の評価・検討	正答肢 4
<p>問題 22</p> <p>設備劣化診断に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前調査で情報収集したデータをもとに、調査の具体的内容やスケジュールなどを記載した業務実施計画書を策定し、発注者の確認のもとに調査を実施する。 事前調査では、図面・記録、資料類の調査によって過去に行われた改修・修繕工事や保守管理部門の設備管理台帳などの調査を行う。 事前調査では、建物所有者、使用者、保守管理者からの要望や、懸案事項などについて情報収集を行い、業務の進め方、計画立案などの基礎資料とする。 CO₂削減の検討や省エネルギー化の検討には、光熱水費の実績データが欠かせないため、一次エネルギーデータ（電気、ガス、油、水道など）は過去一年分のデータを収集する。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P224 41～P225 1 行目 P224 28～29 行目 P224 20～22 行目 P224 34～36 行目 	
		<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>一次エネルギーデータは過去数年分のデータを収集する。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第1章 建築コスト管理の概要	項目	1.1 建築コスト管理とは	細目	1.1.1 コスト管理とは何か	正答肢	3																									
<p>問題 23</p> <p>建築コスト管理の定義に関する記述において、次の組合せのうち最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>コスト管理とは、<input type="text" value="A"/>における<input type="text" value="B"/>を向上させるために、<input type="text" value="C"/>を設定しその達成を図る、<input type="text" value="D"/>である。</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P.2 20～21行目 2 P.2 20～21行目 3 P.2 20～21行目 4 P.2 20～21行目</p>																										
<p>【解答肢】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築工事</td> <td>コスト有効性</td> <td>目標予算</td> <td>一連の管理活動</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>建築事業</td> <td>コスト縮減</td> <td>コストの目標</td> <td>一連の組織活動</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>建築事業</td> <td>コスト有効性</td> <td>コストの目標</td> <td>一連の管理活動</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>発注</td> <td>コスト有効性</td> <td>コストの目標</td> <td>一連の組織活動</td> </tr> </tbody> </table>						番号	A	B	C	D	1	建築工事	コスト有効性	目標予算	一連の管理活動	2	建築事業	コスト縮減	コストの目標	一連の組織活動	3	建築事業	コスト有効性	コストの目標	一連の管理活動	4	発注	コスト有効性	コストの目標	一連の組織活動	<p>【解説】 3が最も適切</p> <p>3 2ページコスト管理の定義による。</p>	
番号	A	B	C	D																												
1	建築工事	コスト有効性	目標予算	一連の管理活動																												
2	建築事業	コスト縮減	コストの目標	一連の組織活動																												
3	建築事業	コスト有効性	コストの目標	一連の管理活動																												
4	発注	コスト有効性	コストの目標	一連の組織活動																												

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.1 仮設と経費	細目	正答肢	4
<p>問題 24</p> <p>仮設と経費に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>					<p>【出典】 建築コスト管理士ガイドブック</p> <p>1 P236 21～22行目 2 P236 19～20行目 3 P236 28～29行目 4 P236 36～39行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 民間工事においては、現場管理費と一般管理費等を合算して、諸経費として計上する場合も多い。</p> <p>2 一般管理費等は、建設会社の本社・支店経費、租税公課、および営業利益といったものである。</p> <p>3 仮設と経費を合わせると、実質は総工費の20%以上となることも珍しくない。</p> <p>4 公共工事積算基準においては、共通仮設工事は、全ての細目について、積上げ積算を行うかまたは直接工事費に対する係数と工期に対する係数によることとされている。</p>					<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>揚重機械設備、仮囲、警備費などについては積上げ積算を行い、その他の項目については、細目の積上げ積算を行うか、または直接工事費に対する係数と工期に対する係数により算定する。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第6章 建築積算業務の実際	項目	6.9 開口部	細目		正答肢	4
<p>問題 25</p> <p>開口部に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P143 3行目 2 P143 4～5行目 3 P143 6～7行目 4 P143 11～12行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 開口部は、木製建具類と金属製建具類に大別される。</p> <p>2 木製建具類は、主仕上の材質、形状等により区分し、建具類の符号、大きさ別のヶ所数を数量とする。</p> <p>3 木製建具の枠は、建具とは別に計測する。枠が木製の場合は木工に計上し、金属製の場合は金属製建具または金属に計上する。</p> <p>4 一般に建具類の塗装（表面処理）、ガラス、開口部周囲のモルタル充てん、シーリング等は、建具に含めて計上するために、計測する必要はない。</p>						<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>建具とは別に計測する。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第1章 建築コスト管理の概要	項目 1.1 建築コスト管理とは	細目 1.1.2 建築コスト管理の機能 1.1.3 発注者側におけるコスト管理	正答肢 2
<p>問題 26</p> <p>建築コスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発注者側のコスト管理においては、施工者（建設会社）が営業的に決定した数値を、プライスと定義する。 2 発注者側のコスト管理におけるターゲットコストは、目標とする契約価格である。 3 コスト管理のPDCAサイクルにおけるCheck（評価）においては、概算コストの算定と、目標コストとの比較分析を行う。 4 コスト管理におけるコストプランニングとは、長期的・短期的視点で最終コストを予測し分析したうえで、入念な計画を立てるプロセスである。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P.7 29～32行目 2 P.8 2～5行目 3 P.5 25～27行目 4 P.4 15～17行目 <p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>2 発注者側のコスト管理においては、目標予算を論理的数値であるターゲットコストとしている。目標とする契約価格は「ターゲットプライス」であり、その実現のために、工事発注戦略が必要となる。表1.1.3-1の内容（一般的な考え方）との混同に注意</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第10章	項目	10.3 データの整理と分析	細目	10.3.2. 数量データ	正答肢	4										
	チェック及びデータ分析																
<p>問題 27</p> <p>躯体数量データに関する記述のうち、<u>最も適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>a 根切量は、土質や地下部分の比率によっても変化が大きいので単なるm2あたりの歩掛りだけでは信頼性に問題がある。</p> <p>b 型枠は、建築物形状、階数等により数量歩掛りやコストの変化が大きい。支保工の特殊項目も計上方法に注意する。</p> <p>c 鉄筋は、メッシュ筋等は重量換算し鉄筋に算入するが、コンクリートとの相関関係は比較的大きい。</p> <p>d 鉄骨は、コストに占める割合も高くまた架構による歩掛りの幅も大きい。技術的な理解が分析の前提となる。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P251 22～23 行目 2 P251 26～27 行目 3 P251 27～28 行目 4 P251 29～30 行目</p>											
<p>【解答肢】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>一つが適切</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>二つが適切</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>三つが適切</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>全てが適切</td> </tr> </tbody> </table>						番号	数	1	一つが適切	2	二つが適切	3	三つが適切	4	全てが適切	<p>【解説】 4 全てが適切</p>	
番号	数																
1	一つが適切																
2	二つが適切																
3	三つが適切																
4	全てが適切																

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.4 概算手法とBIMの活用	正答肢	3
<p>問題 28</p> <p>企画／計画初期段階における概算手法に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外部仕上に関しては、概略積算で数量を算出する。 2 内部仕上に関しては、主要な間仕切の仕様や位置を想定し、ゾーンや大まかな部屋割りが判断できる概略平面図より数量を算出する 3 間仕切は想定される各階の階高さに算出し開口部などは、必ず差し引く。 4 内部建具の内訳書への計上方法は建具面積（建具のm2単価）よりも、概略平面図の部屋割り数から事務室入口扉などの、か所計上の方が算出しやすく、単価も入れやすい。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P94 6 行目 2 P94 10～11 行目 3 P94 11～12 行目 4 P94 16～17 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>開口部などは<u>差し引かない</u>。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.3 工程計画とコスト	細目	4.3.(1) 工程計画がコストに与える影響 4.3.(2) 工程計画の文書化-工程表 4.3.(6) タクト工程	正答肢	2
<p>問題 29</p> <p>工程計画とコストに関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構工法変更の場合、施工手順の変更に伴う種々の新しい工事の発生と従来の工事の一部削減によりコストが変動する。 2 タクト工程とは、超高層ビルや住宅のように、同種の作業を繰り返す場合、習熟度曲線により作業の所要時間を徐々に短縮することを前提として計画された工程をいう。 3 工程表の表現方法には、一般的にバーチャートとネットワークがある。 4 施工の観点から見れば最も重要な管理対象は、労務と施工機械であり工程に直接影響を与える要因となる。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P266 8～9行目 2 P273 39～40行目 3 P266 41～42行目 4 P264 24～25行目 	
						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>同種の作業を繰り返す場合、作業の所要時間一定にして複数の作業が順番に行われるように計画された計画を、タクト工程という。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.4 解体工事	細目	4.4.(7) 杭の解体・撤去	正答肢	4
<p>問題 30</p> <p>杭の解体・撤去に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建物解体に際して、杭は産業廃棄物となるため原則として全て撤去する必要がある。ただし、相応の理由があり、行政との協議により、一部を残置する例も見られる。 2 既存杭の一部残置が可能な場合、新設建物が直接基礎の場合は、掘削と並行して杭を切断処分する。 3 既存杭を撤去する場合、ジェットケーシングバイプロまたはスパイラルケーシングによる引抜工法が多く採用される。引き抜きが困難な場合は、CD工法などで破碎する。 4 杭撤去後の埋戻しは、現場発生土を使用することが一般的であるが、新設杭との近接部あるいは重複干渉部においては、材質や強度について留意する。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P281 32～34 行目 2 P282 3～4 行目 3 P281 35～38 行目 4 P281 38～39 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>杭撤去後の埋戻しは、流動化処理土など充填性の良いものを使用することが一般的である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.5リスク管理とコスト	細目		正答肢	2																								
<p>問題 31</p> <p>リスク管理における4つのリスク領域への対策に関する次の組み合わせのうち、<u>最も適切な組み合わせ</u>を選びその番号を答えなさい。</p> <p>4つのリスク領域</p> <p>A 転嫁・移転する , B 回避する , C 低減・予防する , D 保有する</p> <p>ア 海外資材調達のリスクを把握した上で、コスト削減のためにあえて行う</p> <p>イ 少子化などにより需要の縮小が予想されるので、出店規模を計画の半分にする</p> <p>ウ 専門家賠償責任（建築家賠償責任、請負者賠償責任、CM賠償責任など）保険に加入する</p> <p>エ 特殊な工法・仕様の採用を避け、実績のある工法を採用する</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>P294～P295</p>																									
<p>【解答肢】</p> <table border="1" data-bbox="342 1158 999 1422"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イ</td> <td>エ</td> <td>ウ</td> <td>ア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ウ</td> <td>イ</td> <td>エ</td> <td>ア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ウ</td> <td>ア</td> <td>エ</td> <td>イ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>イ</td> <td>ア</td> </tr> </tbody> </table>							番号	A	B	C	D	1	イ	エ	ウ	ア	2	ウ	イ	エ	ア	3	ウ	ア	エ	イ	4	ウ	エ	イ	ア
番号	A	B	C	D																											
1	イ	エ	ウ	ア																											
2	ウ	イ	エ	ア																											
3	ウ	ア	エ	イ																											
4	ウ	エ	イ	ア																											

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.4 発注方式	細目 3.4.3 積算数量の公開	正答肢 2
<p>問題 3 2</p> <p>入札時積算数量書活用方式に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 入札時積算数量書活用方式導入の背景には、建築数量積算基準が完成し、これにより数量は誰が計測・計算しても、一定の範囲に収束する計測となったことがある。 入札参加者は発注者の提示した積算数量書を活用したか否かにかかわらず、発注者が示した積算数量と違いが生じた場合、積算数量に関する協議を行うことが可能となる。 積算数量は、設計図書から「公共建築数量積算基準」および「公共建築設備数量積算基準」に基づき、計測・計算した数量である。 積算数量書は、入札説明書などの添付資料として交付・公開される。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 173ページ 26行目 174ページ 2行目 174ページ 22行目 174ページ 6行目 	
		<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>入札時に発注者が示した積算数量を活用した場合のみ対象となる</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第7章 建築数量積算基準	項目	7.3基準で決めていること	細目	7.3.2区別・区分できていること	正答肢	4
<p>問題 33</p> <p>建築数量積算基準のコンクリート、型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P209 20～22行目 2 P209 23～24、30行目 3 P209 31行目 4 P209 27～29行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 コンクリートのなかに入る鉄筋、小口径管類、鉄骨の欠除はないものとする。</p> <p>2 窓・出入口の欠除は、開口部の内法寸法による開口面積が1か所当たり1.0㎡以下は、コンクリートの欠如はないものとする。</p> <p>3 コンクリートの斜面勾配が5/10を超える場合は、上面型枠を計測・計算する。</p> <p>4 各部材の取合い部分の型枠は、基礎梁等と底盤、接続面の柱と梁幅が同一のもの、梁と床板、壁式構造の壁と床板の接続部について「さきの部分」は差し引く。これ以外は接続部の面積が1.0㎡以下の箇所の欠除はないものとする。</p>						<p>【解説】</p> <p>4 が最も適切</p> <p>1 は、鉄骨の設計数量について7.85tを1㎡として欠除するが正しい。</p> <p>2 は、<u>0.5㎡以下</u>が正しい。</p> <p>3 は、<u>3/10を超える場合</u>が正しい。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.1 建築コスト管理の業務体系	細目 3.2.2 設計計画とコスト管理 (4) 計画プロセスとコスト管理	正答肢 3
<p>問題 34</p> <p>設計計画とコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本計画段階において、設計者は企画書に沿って必要な図面を作成し、複数の計画案のコスト比較・検討を行ない、プラン、構造設備システムなどの建物概要を決定する。 2 基本計画段階のコスト管理においては、まず、設計図書などの計画情報にもとづき、できる限り精度の高い概算コストを算定することである。 3 基本計画段階において、コスト縮減効果のある設計上の改善提案を行う場合は、イニシャルコストのみならず、LCCを除く品質・工程・環境配慮などを含め検討する必要がある。 4 基本計画段階において、コストプランニングとコストコントロールを十分に行い、概算コストが目標コストと整合した時点で、再度コスト管理表を作成し、基本設計に移行する。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P68 41.42行目 2 P69 6.7行目 3 P69 12～14行目 4 P69 17～38行目 	
		<p>【解説】</p> <p>3が最も不適切</p> <p>LCCを除くのではなく、LCCを含んで検討する必要がある。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.12 PFIとコスト管理	細目	(4) PFI 事業のコスト (4) -2 縮減率	正答肢	3
<p>問題 35</p> <p>PFI事業に関する次の記述のうち、最も不適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数業務の一括発注は、性能発注とともに、事業における民間事業者のノウハウの活用や創意工夫の範囲を拡大させる。 2 業務の規模が大きくなることでスケールメリットが生まれ、民間事業者が市場競争において経済性を追及する大きな動機付けとなる。 3 公共部門側においては、業務の規模が大きくなることで調達手続きが複雑化するため、計画段階において期間を要する傾向がある。 4 選定事業者は、公共部門側の単年度会計原則に制約されず、長期にわたる事業期間を対象とした維持管理・運營業務などを特定の専門会社と締結できる。 						<p>【出典】</p> <p>建築コスト管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P399 20～21行目 2 P399 21～23行目 3 P399 23～24行目 4 P399 25～26行目 	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>(複数業務の一括発注や、業務の規模が大きくなることは)</p> <p>公共部門にとっては、調達手続きの合理化を図ることができ、全体事業費の低減につながる。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.4 発注方式	細目	3.4.1 設計者と施工者の選定方式	正答肢	4
<p>問題 36</p> <p>コンペ・プロポーザル方式に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <p>1 コンペ・プロポーザルへの参加者を求める方法には、広く一般から参加を求める「公募型」と、あらかじめ少数の候補者に絞って行う「指名型」とがある。</p> <p>2 コンペは、設計案を選ぶため、発注者、設計者双方とも、その後の設計過程において選ばれた設計案に拘束される。</p> <p>3 プロポーザルは設計する「人や仕組み」を選ぶ方式である。</p> <p>4 発注者・設計者の両者にとって、コンペ方式がプロポーザル方式に比べて手間や経費、時間は少なくて済むのが一般的である。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 159ページ 12行目</p> <p>2 159ページ 24行目</p> <p>3 159ページ 32行目</p> <p>4 159ページ 33行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>コンペ方式が手間や経費、時間がかかる</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目 4.8 建築コスト管理における 情報技術 (ICT) とBIM	細目 (3) BIM を用いたコスト管理 (3)-1 属性項目の標準化 (3)-2 仕様の記述と建築の分類体系	正答肢 3
<p>問題 37</p> <p>BIM を用いたコスト管理に関する以下の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u> を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建物を部分に切り分けたり、各種の仕様を段階的に定義したりするコスト管理の進め方と、BIMモデルやBIMオブジェクトのデータ構造は、相性が良い。 2 積算やプロジェクト・マネジメントなどの業務で利用するソフトウェアとBIMソフトウェアの間で情報をやりとりするためには、要求性能、製品の仕様、識別のための情報など、BIMオブジェクトの属性項目を標準化しておく必要がある。 3 国際規格「ISO12006 -2」に準拠して、かつ、世界的にも良く知られている分類体系と分類コードは、アメリカの「Uniclass2015」とイギリスの「OmniClass」である。 4 設計段階で、BIMオブジェクトに建物を構成するシステムや製品の工事仕様、標準納まりの情報を紐づければ、詳細な数量積算が可能となるほか、製造者が提供するBIMオブジェクトを用いれば、コスト情報を利用したり、メーカー等への見積依頼も可能になる。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P346 36～37行目 2 P347 2～4行目、23～25行目 3 P348 20～22行目 4 P348 13～18行目 <p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>分類体系の国際規格「ISO12006 -2」に準拠して、かつ、世界的にも良く知られている分類体系と分類コードは、イギリスの「Uniclass2015」とアメリカの「OmniClass」である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.7 LCC(ライフサイクルコスト)	正答肢	2																									
問題	<p>38</p> <p>建物の保全に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>建築を使い続けるには、適切に点検を行い、清掃、修繕、部材・部品の更新などを施すことが必要であるが、こうした一連の営みが、建築保全である。建築保全については、「建築の全体または部分の機能および性能を使用目的に適合するよう維持または改良する諸行為のこと。A と B とに分けられる。」と説明できる。建築保全の種類の手え方については、C と D も重要である。</p>					<p>【出典】 建築管理士ガイドブック P125 20～27 行目</p>																										
【解答肢】	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>予防保全</td> <td>事後保全</td> <td>維持保全</td> <td>改良保全</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>維持保全</td> <td>改良保全</td> <td>予防保全</td> <td>事後保全</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>改良保全</td> <td>予防保全</td> <td>維持保全</td> <td>事後保全</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>改良保全</td> <td>事後保全</td> <td>予防保全</td> <td>維持保全</td> </tr> </tbody> </table>					番号	A	B	C	D	1	予防保全	事後保全	維持保全	改良保全	2	維持保全	改良保全	予防保全	事後保全	3	改良保全	予防保全	維持保全	事後保全	4	改良保全	事後保全	予防保全	維持保全	<p>【解説】 2 が最も適切</p>	
番号	A	B	C	D																												
1	予防保全	事後保全	維持保全	改良保全																												
2	維持保全	改良保全	予防保全	事後保全																												
3	改良保全	予防保全	維持保全	事後保全																												
4	改良保全	事後保全	予防保全	維持保全																												

2020年度建築コスト管理士試験問題

章 目	第3章 建築生産プロセスとコスト 管理	項 目	3.5 施工段階の業務	細 目	3.5.1 発注者側におけるコスト管理	正 答 肢	2
<p>問題 39</p> <p>発注者側における予算総額管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P186 31～32 行目</p> <p>2 P186 41～42 行目</p> <p>3 P186 37～38 行目</p> <p>4 P186 33～34 行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 リアルタイムに変更・追加金額を含めた工事費総額、事業費総額をまとめ、発注者に報告する。</p> <p>2 別途発注工事のある場合、それを含めた全体の予算管理は、行う必要はない。</p> <p>3 想定外の支出が懸念される場合は、予備費（コンティンジェンシー・リスク調整費）を計上し、工事進捗に応じて不確定要素が具現化するとともに、支出項目を確定していくような管理も必要となる。</p> <p>4 定期的に、想定される変更・追加項目を整理のうえ、これに対する概略金額を算定し、工事費総額の予測値を発注者に報告する。</p>						<p>【解説】</p> <p>2. が最も不適切</p> <p>別途発注分の費用を含めた、事業費全体にも目配りする必要がある。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.5リスク管理とコスト	細目		正答肢	1
<p>問題 40</p> <p>建設プロジェクトのプレーヤーのリスクに関する次の記述のうち、最も不適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 296ページ 31行目</p> <p>2 296ページ 42行目</p> <p>3 297ページ 13行目</p> <p>4 297ページ 29行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 発注者の「受注者倒産」リスクに対する有効な対策は保険加入であり、官公庁・民間問わず現存する適切な保険に加入することが有効である。</p> <p>2 設計監理者の最大のリスクである「設計ミス」に対しては、建築家賠償責任保険がある。</p> <p>3 建設会社の「施工ミス」や資機材の破損や第三者に対する事故に対しては、建設工事保険、組立保険、請負業者賠償責任保険（対第三者）などがある。</p> <p>4 専門工事会社にとって、コストに大きく影響するリスクは、建設会社に起因することとなり、元請を選別すること、あるいは現金取引を要求するといったことが、リスク対策として必要である。</p>						<p>【解説】</p> <p>1 が最も不適切</p> <p>現時点では民間プロジェクトを対象とした受注者倒産に係わる保険はない。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.2 設計計画段階の業務	細目 3.2.2 設計計画とコスト管理 (4) 計画プロセスとコスト管理 (5) 計画プロセスにおけるコスト管理の留意点	正答肢 4
<p>問題 4 1</p> <p>設計計画とコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 企画段階でも類似施設の実績コストデータをベースとする概算コストの算定や、最新の市場動向を含めたコストに関する助言を行い、事業性判断などへの支援を行う。 基本設計段階においては、建具、カーテンウォールやユニット類、そして設備工事の一部などの専門工事コストについては、個別に見積りを徴収する方法が有効である。 実施設計段階では、企画から基本設計にいたる各段階においてコスト管理が着実に遂行された場合には、最終コストの確認チェックとその結果の調整をする程度である。 パレートの法則によると、製品などのトータルコストの半分近くが、設計が2割進んだ時点で決まってしまうといわれる。この考え方は、建築の計画プロセスに関しても同様である。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P67 29～31行目 P70 33～36行目 P71 3～5行目 P71 26～28行目 	
		<p>【解説】</p> <p>4 が最も不適切</p> <p>パレートの法則では、トータルコストの<u>8割</u>は、設計が2割進んだ時点で決まってしまうといわれている。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.2 構工法とコスト	細目	(6) 免震構造	正答肢	3
<p>問題 4 2</p> <p>免震構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 柱頭部あるいは柱中間部に個別に免震部材を設けた場合は、建物中間に免震層を設ける場合より建物高さに対する影響は少なくなるが、一方、耐火被覆が必要となり、エキスパンションも複雑になる。 荷重支持機構とは、建物が傾かないよう、鉛直方向に固く支える機能である。 アイソレータ機構とは、建物が大きく変形しないよう制御し、また地震による振動が早く収束するよう運動エネルギーを吸収する機能である。 基礎免震は、地下に免震用ピットを設けるため、土工事などのコストがアップし、工期も長くなる傾向がある。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P253 26～28行目 P253 36行目 P253 37～40行目 P253 18～27行目 	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>3. は、ダンパ機構の記述である。</p> <p>アイソレータ機構とは、地震時に建物を水平方向に柔らかく支え、ゆっくりと動かせる機能である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.2 設計計画段階の業務	3.2.3 建築コストの変動要因	正答肢	3
<p>問題 43</p> <p>建築コストの変動要因に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構造コストの変動要因は構造方式、スパン、階高、地下階の有無、規模や建物形状などであり、これらによって構造コストは大きく変動する。 2 一般の事務所ビルを基準に構造形式で建築コストを比較する場合は、躯体コストのみの比較ではなく、仕上げ材まで含めた総コストで検討する必要がある。 3 スパンに関しては梁せいとの関連性もあるが、標準的な事務所ビルの場合、一般的な経済スパンは、RC造で6～8m程度、SRC造で9～12m程度、S造で20～30m程度とされている。 4 物流関連施設などでは、従来の大スパン構造の主流であるS造に代わる工法として、柱をRC造、梁をS造とするハイブリッド構造などの事例も多くでてきている。 			<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P77 4行目～6行目 2 P77 21行目～22行目 3 P77 32行目～34行目 4 P77 37行目～39行目 	
			<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>RC造で<u>6～8m</u>程度、SRC造で<u>9～12m</u>程度、S造で<u>12～20m</u>が正解。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.6環境計画とコスト管理	細目	4.6.1環境を取り巻く動向	正答肢	3
<p>問題 4 4</p> <p>地球環境問題対策に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2015年にCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で、「パリ協定」が合意され、各国において温室効果ガスの削減目標を目指すことになっている。 2 「ESG投資」とは、環境（Environment）、社会（Society）、企業統治（Governance）に配慮している企業を重視・選別して行う投資である。 3 国連では、2015年に「SDGs：持続可能な開発目標」として27の目標が世界193ヵ国で採択された。 4 2011年の東日本大震災により、日本全体のエネルギーインフラの脆弱が露呈され、2013年に「省エネ法」が改定された。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P302 9～12 行目 2 P302 38～40 行目 3 P302 7～8 行目 4 P303 13～14 行目 	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>「SDGs：持続可能な開発目標」は17の目標が採択された。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.4 発注方式	細目	3.4.2 多様な発注方式	正答肢	3
問題	45	<p>設計と施工の調達方法に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>			<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>1 165ページ 17行目 2 165ページ 35行目 3 166ページ 35行目 4 167ページ 22行目</p>		
【解答肢】	<p>1 設計・施工分離方式は、設計は設計専門事務所と、施工は建設会社と契約を行う方式である。</p> <p>2 デザインビルド方式は、設計と施工の契約を「同一の契約」で行う方式である。</p> <p>3 E C I方式は、発注者が設計専門事務所と施工会社との両方と設計契約を行う方式である。</p> <p>4 P F I方式は、民と官が連携して公共サービスの提供を行うスキームであるPPPの代表的な手法の一つである。</p>			<p>【解説】 3が最も不適切</p> <p>施工会社とは「技術協力者」として委託契約を行う</p>			
※PPP (パブリック・プライベート・パートナーシップ)	<p>公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをPPP (公民連携) と呼ぶ。</p>						

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.5 コストデータの分析と活用	正答肢	2
<p>問題 46</p> <p>部分別内訳書標準種式（建築工事内訳書標準書式検討委員会制定）に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 部分別標準書式では種目として、建築・設備・屋外施設の3分類を設けている。 建築工事費において、部分別標準書式では大科目として、大きく6分類（直接仮設、土工・地業、躯体、外部仕上、内部仕上、開口部）を設けている。 部分別標準書式では中科目として、建物の部分別・機能別に分けて科目構成を行い、その集合体としてコストを把握しようとしている。 部分別標準書式では小科目として、現行の工種別コスト分類に近い表現になっているのは、工種別・工程別による生産方式との連携を考慮しているためである。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> P110 8行目 P109 38～40行目 P109 40～41行目 P110 2～4行目 	
						<p>【解説】</p> <p>2が最も不適切</p> <p>大きく5分類。</p> <p>（直接仮設、土工・地業、躯体、外部仕上、内部仕上）開口部は外部、内部仕上にそれぞれ含まれる。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.7 法規とコスト	細目	4.7.4構造耐力に関する法規とコスト	正答肢	2
<p>問題 47</p> <p>建築物の構造耐力に関する法規類の以下の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P324 24～25行目、30～31行目、</p> <p>2 P324 1～2行目</p> <p>3 P323 29～32行目</p> <p>4 P322 39～42行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 RC造は自重が重く、圧倒的に地震力による水平力が大きいので、風荷重の躯体コスト影響は考えられにくいですが、開口部や外壁の仕様等に影響があるので注意を要する。</p> <p>2 積雪荷重は、屋根の水平投影面積及びその地方における垂直積雪量1cmごとに、単位荷重20N（約2kg重）を乗じる全国共通の計算式による。</p> <p>3 積載荷重については、床構造計算用、架構の構造計算用、地震力計算用について床面積当たりの数値が示されている。</p> <p>4 地震について「地震地域係数」が地域に応じて「1.0」から「0.7」までの数値が定められているが、国の定めた数値に上乘せを条例にて独自に義務化している地方自治体も存在する。</p>						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>積雪荷重は、屋根の水平投影面積及びその地方における垂直積雪量1cmごとに、単位荷重20N（約2kg重）を乗じて計算するが、多雪区域（垂直積雪量が1m以上の区域など）については、特定行政庁がこれと異なる定めをすることが可能である。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.3 建築コストの変動要因	正答肢	3
問題	48	<p>建築コストに関する変動要因について次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>				<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P82 8～9 行目 2 P82 12～14 行目 3 P82 16～20 行目 4 P82 21～23 行目</p>	
【解答肢】	<p>1 主な発注方式には建築工事と各設備工事（電気・空調・給排水衛生・昇降機・特殊設備など）を一括発注する方法と、各々を分ける分離発注がある。</p> <p>2 一括発注方式は全工事を一括して総額で発注ができるので、発注者にとって発注手続きや工事管理の手間、時間、リスクの低減化につながり、単純で分かり易い方式である。</p> <p>3 分離発注方式は発注者側の管理負担、例えば専門工事会社の統括・調整・管理業務などの費用が増えるが、発注者が直接契約するため、確実にコストは低減される。</p> <p>4 近年、採用例が増えてきた発注方式としては、工事施工者が早期にプロジェクトに参加する発注方式として、ECI方式、日本版DB方式として、設計・施工一括発注方式などがある。</p>				<p>【解説】 3 が最も不適切</p> <p>コスト低減の可能性は増大するが、必ずしも低減できるとは限らない。</p>		

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.6 VE (バリューエンジニアリング)	正答肢	2																									
<p>問題 49</p> <p>VE (バリューエンジニアリング)に関する次の記述のうち、最も適切な組み合わせを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>VE (バリューエンジニアリング) とは、製品やサービスの A を、それが果たすべき B とそのためにかかる C との関係で把握し、システム化された手順によって D の向上をはかる手法です。</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>P113 29～31 行目</p>																										
<p>【解答肢】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 15%;">A</th> <th style="width: 15%;">B</th> <th style="width: 15%;">C</th> <th style="width: 15%;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コスト</td> <td>機能</td> <td>価値</td> <td>コストパフォーマンス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>価値</td> <td>機能</td> <td>コスト</td> <td>価値</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コスト</td> <td>機能</td> <td>時間</td> <td>コストパフォーマンス</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>満足度</td> <td>機能</td> <td>コスト</td> <td>満足度</td> </tr> </tbody> </table>						番号	A	B	C	D	1	コスト	機能	価値	コストパフォーマンス	2	価値	機能	コスト	価値	3	コスト	機能	時間	コストパフォーマンス	4	満足度	機能	コスト	満足度	<p>【解説】 2 が最も適切</p>	
番号	A	B	C	D																												
1	コスト	機能	価値	コストパフォーマンス																												
2	価値	機能	コスト	価値																												
3	コスト	機能	時間	コストパフォーマンス																												
4	満足度	機能	コスト	満足度																												

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.6 建物維持管理段階の業務	細目	3.6.4 集合住宅の維持保全とコスト管理	正答肢	3
<p>問題 50</p> <p>集合住宅（分譲マンション）の維持保全とコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市部の集合住宅の維持保全工事やコスト管理業務は、減少する新築市場に代わり今後一層増加することが考えられる。 2 集合住宅の維持保全工事のニーズは、仕上げ材の経年劣化や設備の機能低下などを改善する物理的な要因や感性的、経済的な要因など多様であり、これらの要因を踏まえてコストマネジメントを行う。 3 維持保全工事においては、管理組合制定の管理規約で事前に内容を把握し、専有部分と共用部分は一体として費用負担をする。 4 管理するコストは長期修繕計画による予算確保を目的としたものと、工事実施時の詳細なコストに区分される。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P228 18～20 行目</p> <p>2 P228 36～40 行目</p> <p>3 P229 30～42 行目</p> <p>4 P229 19～21 行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>維持保全工事の費用負担は専有部分と共用部分を明確に区分する。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.2 設計計画段階の業務	細目	3.2.7 LCC(ライフサイクルコスト)	正答肢	2
<p>問題 5 1</p> <p>LCC(ライフサイクルコスト)に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建築を実現するための費用は、大きく設計費と施工費の2つに別けてとらえられ、これらはイニシャルコスト（初期費用）と呼ばれる。 2 建築の効用を維持していくためには、保全、空調、照明、情報機器などの運用、そして税金や減価償却などの費用がかかる。そして、最終的に除却される際には、解体工事などの費用がかかる。これらはライフサイクルコスト（運用費用）と呼ばれる。 3 減価償却費は、財務省令が構造用途別に定める耐用年数の間にイニシャルコストを償却するものであり、実際にキャッシュが動くものではなく、企業や団体の会計において計上されるものである。したがって、ライフサイクルコストに含めることは2重の計上になるので、留意が必要である。 4 建築のライフサイクルコストは、最終的に除却されて確定するものである。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P124 5行目 2 P124 7～9行目 3 P128 4～6行目、15～16行目 4 P129 22行目 	
						<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>これらはランニングコストと呼ばれる。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目 3.3 設備計画とコスト	細目 3.3 (3) 設備工事におけるコスト変動要因 3.3 (7) 設備工事（電気・空調・衛生）コストの構成について	正答肢 2
<p>問題 5 2</p> <p>設備計画とコストに関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コスト変動要因は、建設地域、建物用途、グレード、発注形態（一括・コストオン・分離）などが考えられる。 2 大規模事務所ビルにおける空調設備工事のうち、熱源機器設備、空調機器設備、自動制御設備の機器類が占める割合は、80%程度になる。 3 設備のグレードはコスト変動の大きな要因であるため、建築計画、構造計画、設備計画を総合的に検討し、バランスのとれた設計内容とコストを策定することが重要である。 4 設備工事のコスト管理の方法は、企画・構想段階からスタートし、設計の進行中、そして工事が完了するまでの間、建築設備に関する予算策定、工事費概算の算出、発注戦略の検討などを行う。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P137 4～6 行目 2 P141 3～6 行目 3 P137 9～11 行目 4 P141 25～27 行目 	
		<p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>機器類合計で50%程度にあたる。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第7章 建築数量積算基準	項目	7.3基準で決めていること	細目	7.3.2区別・区分できていること	正答肢	3
<p>問題 53</p> <p>建築数量積算基準の鉄筋の通則に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P210 5行目 2 P210 10～12行目 3 P210 13～14行目 4 P210 17行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 鉄筋の設計長さは、コンクリートの設計寸法に、定着、継手などを加えた長さとする。</p> <p>2 重ね継手または圧接継手は、別に定める各部分の計測・計算を除き、計測・計算した鉄筋長さに、径13mm以下の鉄筋は6mごとに、径16mm以上の鉄筋は7mごとに継手があるものとする。</p> <p>3 鉄筋の割増本数は、設計図書に記載されていない場合、コンクリートの長さを鉄筋の間隔で除し、小数点第1位を切り捨てた整数に1を加えた本数とする。</p> <p>4 鉄筋の所要数量は、計測計算して求めた設計数量の4%の割増とする。</p>						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>鉄筋の割増本数は、設計図書に記載されていない場合、コンクリートの長さを鉄筋の間隔で除し、小数点第1位を切り上げた整数に1を加えた本数が正しい。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第3章 建築生産プロセスとコスト管理	項目	3.5.2 受注者(施工者)側におけるコスト管理	細目	3.5.2受注者側(施工者)におけるコスト管理	正答肢	1
<p>問題 54</p> <p>受注者側におけるコスト管理に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p>						<p>【出典】 建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P191 3～ 5行目 2 P191 7～ 9行目 3 P192 13～ 14行目 4 P191 17行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 工事の施工は、下請会社と各々下請契約をするが、実態としては元請会社が2次・3次下請け会社とも下請け契約を結ぶ重層構造が存在する。</p> <p>2 一般的に施工者は、自社の工事を恒常的に下請けする専門工事会社や資材納入会社を、技術的信頼性あるいは与信管理面での必要性から、協力会として組織している。</p> <p>3 海外からの資材や機器などの調達は、発注から納入までの期間が長く、輸入手続きも煩雑になるため、工程の面からも十分な検討を行う必要がある。</p> <p>4 下請企業の選定と契約業務は、一般的には調達(購買)部門の所管となる。</p>						<p>【解説】</p> <p>1 が最も不適切</p> <p>下請契約は1次下請企業と締結する</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目 4.8建築コスト管理における 情報技術（ICT）とBIM	細目 (3) BIM を用いたコスト管理 (3)-1 属性項目の標準化 (3)-2 仕様の記述と建築の分類体系 (3)-3 プレ・コンストラクション	正答肢 2
<p>問題 55</p> <p>BIM を用いたコスト管理に関する以下の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u> を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 分類体系は、BIMオブジェクトを「物の構成」という切り口で分類する「物理的な分類」と概算や仕様書記述など業務の切り口により分類する「概念的な分類」に大別できる。 2 「物理的な分類」は、建物を構成するシステムや製品、それを構成する材料や部品の階層が重要であり、その分類コードは、基本設計段階から付与することが望ましい。 3 「概念的な分類」は、例えば、見積書の部分別内訳と工種別内訳などどの段階で誰にとってわかりやすい内訳なのかで異なり、それらの分類コードは、設計者が設計の進捗に応じてBIMオブジェクトに追記するのが望ましい。 4 設計の早い段階から、BIMモデルを利用して施工の観点から発注者を支援するプレ・コンストラクションのサービスが、アメリカやイギリスで広がっている。 		<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 P353 24～25行目 2 P353 26～29行目 3 P353 31～37行目 4 P354 4～7行目 <p>【解説】</p> <p>2 が最も不適切</p> <p>「物理的な分類」は、建物を構成するシステムや製品、それを構成する材料や部品の階層が重要で「Uniclass2015」の「Systems」と「Products」、 「OmniClass」の「Table23-Products」などが該当する。物理的な分類の分類コードは、BIMオブジェクトに最初から付与されているのが望ましい</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.9市場コスト情報と コスト管理	細目		正答肢	3
<p>問題 56</p> <p>指数に関する次の記述のうち、<u>最も不適切なもの</u>を1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公表されている指数により、工事費の時系列的動向や地域間格差などを推計することができる。 2 建築費の推移を示す主な指数としては、建設工事費デフレーター（国土交通省）、標準建築費指数（建設工業経営研究会）、建設物価建築費指数（建設物価調査会）等がある。 3 標準建築費指数と建設物価建築費指数には、地域差を示す指数が示されており、設計や施工条件などの地域性も考慮されている。 4 指数では、基準時や基準地を100として設定している。 						<p>【出典】</p> <p>建築管理士ガイドブック</p> <p>1 P364 37～38 行目</p> <p>2 P364 41 行目～P365 1 行目</p> <p>3 P365 9～13 行目</p> <p>4 P364 38 行目</p>	
						<p>【解説】</p> <p>3 が最も不適切</p> <p>設計や施工条件、需給などの経済的要素は全て東京と同一ということを前提として考える必要がある。</p>	

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.11.5 FMの業務 (6)評価	細目		正答肢	4															
<p>問題 57</p> <p>ファシリティマネジメント（FM）における品質評価項目とその内容について、<u>解答の組合せが最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</u></p> <table border="1" data-bbox="273 735 837 999"> <thead> <tr> <th></th> <th>評価項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>快適性評価</td> <td>居住性</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>生産性評価</td> <td>可変性</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>安全性評価</td> <td>防犯性</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>環境性評価</td> <td>保健制</td> </tr> </tbody> </table>							評価項目	内容	a	快適性評価	居住性	b	生産性評価	可変性	c	安全性評価	防犯性	d	環境性評価	保健制	<p>【出典】 建築コスト管理士ガイドブック</p> <p>a P. 386 36行目 b P. 386 37行目 c P. 386 38行目 d P. 386 40行目</p>	
	評価項目	内容																				
a	快適性評価	居住性																				
b	生産性評価	可変性																				
c	安全性評価	防犯性																				
d	環境性評価	保健制																				
<p>【解答肢】</p> <table border="1" data-bbox="280 1131 616 1396"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>組み合わせ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>aとb が適切</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>bとc が適切</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>cとd が適切</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>aとc が適切</td> </tr> </tbody> </table>						番号	組み合わせ	1	aとb が適切	2	bとc が適切	3	cとd が適切	4	aとc が適切	<p>【解説】</p> <p>4 が最も適切な組合せ bとdが不適切な内容</p> <p>b 「可変性」は、耐用性評価 d 「保健性」は、快適性評価</p>						
番号	組み合わせ																					
1	aとb が適切																					
2	bとc が適切																					
3	cとd が適切																					
4	aとc が適切																					

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目 第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法		項目 4.13 建物の評価・鑑定	細目 (3)エンジニアリング・レポートと 不動産鑑定評価	正答肢	2																									
<p>問題 58</p> <p>エンジニアリング・レポートに関する記述において、 最も適切な組合せを1つ選び、その番号を答えなさい。</p> <p>不動産取引においては、買い手側、売り手側、<input type="text" value="A"/> など、関係するそれぞれの立場から対象不動産を適正に評価する必要がある。そのために重要な調査が <input type="text" value="B"/> である。その <input type="text" value="B"/> は、法的調査、<input type="text" value="C"/>、<input type="text" value="D"/> の3つの調査からなる。その一つである <input type="text" value="D"/> 報告をエンジニアリング・レポートが担う。</p>				<p>【出典】 建築コスト管理士ガイドブック</p> <p>1 P. 407 35行目 2 P. 407 37行目 3 P. 407 38行目 4 P. 407 38行目</p>																										
<p>【解答肢】</p> <table border="1" data-bbox="280 1114 1227 1375"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>利用者側</td> <td>デューデリジェンス</td> <td>経済的評価</td> <td>物理的評価</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>融資側</td> <td>デューデリジェンス</td> <td>経済的評価</td> <td>物理的評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>融資側</td> <td>不動産鑑定評価</td> <td>物理的評価</td> <td>経済的評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>融資側</td> <td>デューデリジェンス</td> <td>物理的評価</td> <td>経済的評価</td> </tr> </tbody> </table>				番号	A	B	C	D	1	利用者側	デューデリジェンス	経済的評価	物理的評価	2	融資側	デューデリジェンス	経済的評価	物理的評価	3	融資側	不動産鑑定評価	物理的評価	経済的評価	4	融資側	デューデリジェンス	物理的評価	経済的評価	<p>【解説】 2の組合せが最も適切</p>	
番号	A	B	C	D																										
1	利用者側	デューデリジェンス	経済的評価	物理的評価																										
2	融資側	デューデリジェンス	経済的評価	物理的評価																										
3	融資側	不動産鑑定評価	物理的評価	経済的評価																										
4	融資側	デューデリジェンス	物理的評価	経済的評価																										

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第4章 コスト管理の知識理論 ・技術手法	項目	4.14 コスト管理業務に関わる 法的責任	細目		正答肢	2
----	----------------------------	----	--------------------------	----	--	-----	---

問題 59

コスト管理業務に関わる法的責任に関する以下の記述について、
不適切なものがいくつあるか 1つ選び、その番号を答えなさい。

- a 一般的にはコスト管理業務について、「業務費見積書」を使用することもあり、法的効力としては「業務費見積書」が優先的に適用されることが原則であるが、背景にある民法についても把握しておく必要性は高い。
- b 契約責任の検討のための前提として、コスト管理業務の性質を検討すると、業務内容が具体的に決まっているか否かによって、「請負契約」か「準委任契約」かに分かれることになる。
- c 民法改正において、建築業界に最もインパクトを与えたのが、従来の「瑕疵」概念を放棄して、新たに契約不履行責任という概念を導入した点である。
- d コスト管理業務は、建築のコストや入札金額などの金銭に関係する業務であるから、談合や価格カルテル（独占禁止法で規定されている不当な取引制限のひとつで、事業者が競争業者と共同して公共の利益に反して価格面での競争を実質的に制限すること）への関与を十分注意する必要がある。

【解答肢】

番号	数
1	一つ
2	二つ
3	三つ
4	四つ

【出典】

建築コスト管理士ガイドブック

- a P. 411 16～19行目
- b P. 411 22～24行目
- c P. 414 34～37行目
- d P. 420 2～5行目

【解説】

2 が適切

aとcが不適切

- a 「業務費見積書」ではなく「約款」
- c 「契約不履行責任」ではなく「契約不適合責任」

2020年度建築コスト管理士試験問題

章目	第7章 建築数量積算基準	項目	7.3基準で決めていること	細目	7.3.2区別・区分できていること	正答肢	3
<p>問題 60</p> <p>建築数量積算基準の仕上の主仕上の欠徐部分の処理に関する次の記述のうち、<u>最も適切なものを1つ選び、その番号を答えなさい。</u></p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P212 4～5 行目 2 P212 14 行目 3 P212 9行目 4 P212 17 行目</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 建具などの開口部の内法寸法による面積、または長さは、0.5㎡、0.05m以下の欠除はないものとする。</p> <p>2 幅木、廻縁、ボーダーなどの附合物等の欠除は、幅または高さが0.1m以下の場合各部分の欠除はないものとする。</p> <p>3 壁と梁、柱と床または天井の欠除は、1か所当たり0.5㎡以下の欠除はないものとする。</p> <p>4 衛生器具、照明器具などの器具類による各部分の欠除は、1か所当たり0.1㎡以下は欠除はないものとする。</p>						<p>【解説】</p> <p>3 が最も適切</p> <p>1は、長さは0.5m以下が正しい。 2は、0.05m以下が正しい。 4は、0.5㎡以下が正しい。</p>	